

第二章 地形

一 久万高原

愛媛県の盆地は外帯に散在し、平野はいずれも中央構造線の北にある。したがって、仁淀川・重信川・肱川・立岩川の上流には、断線によって小盆地が列をなして点在しており、久万高原の久万町も、この断線にそって並んでいるわけである。

久万町内にある四つの小盆地は、長瀬系変成岩山地区のバックスロープを南下する仁淀川の上流の諸川によって、新しい被覆層である石鎚層群（火成岩）・久万層群（堆積岩）が次第にけずりとられ、つくられていった梨棚式配列の小盆地である。西方から二名・露峰・久万・畑野川・直瀬・笠方の順に盆地が並んでおり、いずれも仁淀川の上流に残された平衡状態に近い河系のため、面状浸食や埋積作用が進められてできた小盆地であると推定される。なぜならば、盆地底に現世統、その縁に更新統の推積物が見られる一方、周辺を老年期性の地形（化石準平原）がとりまいているからである。

久万高原の直瀬・畑野川・久万・父二峰の四つの盆地は、北東から南西に並び、北西から南東へと傾斜している。

直瀬盆地は上直瀬・下直瀬地区に分かれていて、石墨山・白猪峠・井内峠・笹森山に囲まれている。房代野は七五〇㊦の高地に集落をなしていて畑作が中心であるが、段・永子・仲組・下組・下直瀬は海拔五五〇

㊦から六五〇㊦の盆地上に集落をなし、米作が中心である。

畑野川盆地は上畑野川と下畑野川地区に分かれていて、笹森山・陣ヶ森・皿ヶ嶺・菊ヶ森に囲まれている。河之内・遅越・明杖・宝作・西浦・上田・中村・河合・狩場・柳井と集落をなし、盆地の大部分は海拔五〇〇㊦から六〇〇㊦の位置にある。この盆地も米作が中心である。

久万盆地は、明神・久万・野尻・菅生地区に分かれていて、菊ヶ森・皿ヶ嶺・引地山・三坂峠・桂ヶ森・鶴田峠・農祖峠に囲まれている。この久万盆地は、久万高原の四つの盆地の中で最も大きく、人口も集中している地域である。海拔七二〇㊦の三坂峠には、伊予鉄ドライブインをはじめ、飲食店や季節の農産物・加工品を売る店も並び、昔、旧道を往来する人々のために茶屋のあったこの地も、今では観光客でにぎわっている。

国道三三号線にそって、東明神・西明神・入野・菅生・久万・上野尻・下野尻の集落に分かれている。海拔は、三坂峠で七二〇㊦・六部堂で六五〇㊦・野地五七八㊦・高殿五一八㊦・町内四九〇㊦・上野尻四七一㊦・落合四二六㊦となっていて、久万川に沿って北西から南東にかなり傾斜している。

父二峰盆地は二名・露峰・父野川地区に分かれていて、農祖峠・鶴田峠・桂ヶ森・正持ヶ峠・サレガ峠・大堂峠・下坂場峠・真弓峠に囲まれている。この盆地は、海拔四五〇㊦から六〇〇㊦に集落があるが、久万町の四つの盆地の中では一番せまい。

地区別人口・戸数

地区	人口	世帯数
久万	5,168	1,893
畑野川	1,123	384
直瀬	956	309
父二峰	1,246	430
計	8,493	3,016

(昭和62年3月現在)

二山と川

四国山地の一連をなす久万高原の山々は、標高一〇〇〇呎前後である。久万町は、石墨山一四五九呎・白猪峠一一二九呎・井内峠一〇八八呎・笹森八四四呎・陣ヶ森一二一〇呎・引地山一〇二六呎・皿ヶ嶺一二七〇呎・菊ヶ森九一四呎・黒森山一一五四呎・桂ヶ森一二二四呎・鶏田峠七八九呎・農祖峠六五五呎・サレガ峠八九四呎・大堂峠八一〇呎・三郷の辻九三三呎・下坂場峠五七〇呎・真弓峠七三三呎の山々に囲まれている。仁淀川の上流である久万盆地の川は、いずれも小さく水量も少ないが、水田灌漑用として重要な役割を果たしている。

直瀬盆地を流れる直瀬川は、石墨山に源を発し、上直瀬・下直瀬を流れて美川村七鳥で面河川に合流している。直瀬川は水量が少なく川幅もせまいが、直瀬地区での唯一の灌漑用水であるとともに、簡易水道の水源として生活用水にも利用されている。

畑野川盆地を流れる川は、上林峠にその源を発し、上畑野川・下畑野川・中ノ村を流れて有枝川となり、美川村河口で久万川に合流している。この川も水量が少なく、川幅もせまいが、灌漑用水として重要な役割を果たしている。

久万盆地を流れる久万川は、三坂峠にその源を発し、明神・久万・野尻・落合を流れて、美川村御三戸で面河川と合流している。

父二峰盆地を流れる二名川は、サレガ峠にその源を発し、橋詰で父野川と合流し更に久万川に合流している。この川も水田灌漑として役立つている。